

沖永良部島イクサイヨー洞穴遺跡第4次発掘調査速報

A Prompt Report of the Fourth Excavation at Ikusaiyo Cave Site, Okinoerabu Island

竹中 正巳¹⁾，大西 智和²⁾，鐘ヶ江 賢二³⁾，芝原 万季⁴⁾，宮城 幸也⁵⁾，仲田 眞一郎⁵⁾

Masami Takenaka, Tomokazu Onishi, Kenji Kanegae, Maki Shibahara, Koya Miyagi, Shinichiro Nakata

¹⁾ 鹿児島女子短期大学，²⁾ 鹿児島国際大学国際文化学部，³⁾ 鹿児島国際大学ミュージアム，

⁴⁾ 鹿児島国際大学大学院国際文化研究科，⁵⁾ 知名町教育委員会

本稿は鹿児島県大島郡知名町イクサイヨー洞穴遺跡の第4次発掘調査の一部（2023年8月14～25日実施分）の調査成果速報である。1トレンチでは、4-2層下部から人骨片、土器片と貝製品が出土した。5層よりも下からは、炭化物が検出されるのみであった。2トレンチはトレンチを拡張したところ、石棺の東端が出土した。今回、新たに3トレンチを設定し、掘り下げた。3トレンチの1～4層までの層序関係および出土する遺物は1トレンチと同様のものであることがわかった。焼土層の存在や出土する土器も変わらない。余多川側洞穴開口部の精査も行ったところ、岩裂にある再葬墓を新たに発見した。

Keywords : Ikusaiyo cave site, human skeletal remains, stone coffin, reburial, Okinoerabu island

キーワード : イクサイヨー洞穴遺跡, 古人骨, 石棺, 再葬, 沖永良部島

1. はじめに

イクサイヨー洞穴遺跡は、鹿児島県大島郡知名町大字余多字石嘉喜に所在する。沖永良部島の中央部、東側海岸にある（図1・2）。1984年に地元の大山倭氏により発見された（知名町教育委員会，1986）。イクサイヨー洞穴は北西から北東方向に貫通している石灰岩洞穴である。洞口は北西側と南東側にある。北西側の洞口は余多川下流の川岸にあり、南東側の洞口は太平洋に面する海食崖に開口している（図3）。

われわれは沖永良部島の先史時代人骨の新たな発見を目指し、2021年度から発掘調査に取りかかった（竹中ほか，2022）。2021年度は、2021年12月24日から30日、2022年1月22・23日、2月19・20日の合計10日間、第1次発掘調査を行った。イクサイヨー洞穴遺跡の南東側洞口開口部の東西の高まりに、それぞれ1つずつトレンチを設定した（図4）。西側の高まりに、0.7m×3mの1トレンチを設定した。東側の高まりには、1m×1mの2トレンチを設定した。以下に、成果を記す。

1トレンチを掘り下げると、小穴奥のトレンチ際の表土直下から鏡が出土した。表土層からは、多くはないが、人骨が検出された。表土から10～20cm下に7～8mm程度の巻貝がほぼ1列に並ぶ層があり、その10cm程度下から人骨や土器片が出土した。鏡の直径は約8cm、重量は53gである。貝層を挟んで、上下に人骨が出土している。上の人骨や鏡は、表土に認められる風葬骨との関連が考えられる。また、下の人骨や土器は、上の人骨よりも古い可能性がある。下の人骨の中には、火を受けた骨もある。

2トレンチ（1m×1m）は、東側の高まりに、のトレンチを設定した。表土上にある石灰岩の隙間には、土器や人骨片が露出していた。徐々に掘り下げていくと、人骨片や土器片、貝輪などが多数出土した。表土から約15cm掘り下げた今回の発掘調査の最下層からは、人骨片や土器片、貝輪、タケノコ貝製品などが多数出土した。

2022年度は、これまでに、第2次調査を2022年4月28日から5月5日までの8日間、第3次調査を12月23日から30日までと2023年3月11・12・27日の合計11日間実施した（竹中ほか，2023）。両調査とも、1次調査で掘り始めた2つのトレンチの掘り下げを継続した。1トレンチを掘り下げると、第2次調査では、下層の全面から人骨や土器片が出土した。人骨は東側に多い。焼けた人骨も含まれる。出土した土器は仲原式土器の破片ばかりであった。第3次調査では、さらに掘り下げを進めた所、焼土層（炉跡）が少なくとも5箇所は確認された。掘り下げ最下面からは人骨片や土器片が出土した。面縄前庭式土器の土器片であった。

2トレンチは、石灰岩を外しながら掘り進めると、第2次調査では、人骨片、貝製品（貝輪など）が検出された。人骨片の中には焼骨片もある。出土した土器片は仲原式である。第2次調査の終盤で、石棺の可能性のある石組みが検出された。南側にトレンチを拡張（1m×1m）し、掘り下げを進めた。5月の調査終了時点では、石棺かどうか判断はできなかった。

第3次調査では、さらに石灰岩を外しながら、掘り下げると、蓋石の隙間から右前腕が検出された。蓋石下には頭蓋が遺存していることも確認できた。石材の配置からも、人骨の遺存状況からも、石棺である可能性が高いと考えられた。

2023年度は、第4次調査として、これまでに、2023年8月14～25日の12日間、10月27～29日の3日間、および11月8～12日の5日間、発掘調査を行っている。本調査では、新たに3トレンチを設定し、掘り下げを開始した。また、余多川側の洞穴開口部の踏査も行い、石灰岩裂に再埋葬を発見した。今後も、2023年1月に数日間の調査を行い、第4次調査を終える予定である。本稿は、2023年8月に行った発掘調査の成果の速報である。

2. 第4次発掘調査（2023年8月実施分）の成果

1トレンチでは、4・2層下部から、人骨片、室川下層式の可能性がある土器片および貝製品が出土した（図5）。5層からは、炭化物が検出されるのみで、人骨片は出土していない。現在の地表面から約260cm掘り下げたところ、落下した石灰岩に阻まれ、掘下げられなくなったため、調査を終了し、トレンチを埋め戻した（図6）。

2トレンチは東側にトレンチを拡張し、石灰岩を外しながら掘り進めると、人骨片、貝製品が検出できた。石棺の東端も検出された（図7）。今回の調査で、石棺上部の全体像が明らかになった。

今回、新たに3トレンチを設定し（図8）、掘り下げた。1層～4層で、人骨片（焼骨片も含まれる）が出土した（図9・10）。2層から仲原式土器片が出土した。1トレンチ同様、焼土層が2層から検出された。面縄前庭式土器片（口縁部）が4層下面から出土した（図11）。1～4層までの層序関係は第1トレンチと同様である。

余多川側洞穴開口部の精査も行ったところ、岩裂にある再埋葬を新たに発見した。複数の頭蓋や四肢長骨が岩裂に押し込まれた状態で発見された（図12）。各骨は解剖学的位置関係を保っていない。岩裂周囲には他にも古人骨片、土器片や動物骨（イノシシ下顎骨）片が表採できた。

2024年度も、出土遺物や人骨の所属年代を明らかにしながら、発掘調査を継続する予定である。

謝辞

発掘調査にあたり、知名町教育委員会の皆様には様々な便宜を図っていただいた。本発掘調査はMEXT 科研費JP23H04842によって行われた。

引用文献

知名町教育委員会（1986）知名町埋蔵文化財分布調査概報—昭和60年度—。知名町文化財報告書(5)。p15

竹中正巳・大西智和・鐘ヶ江賢二・宮城幸也（2022）沖永良部島イクサイヨール洞穴遺跡発掘調査速報。鹿児島国際大学ミュージアム調査研究報告 19: 13-16.

竹中正巳・大西智和・鐘ヶ江賢二・宮城幸也（2023）沖永良部島イクサイヨール洞穴遺跡2021年度発掘調査速報。鹿児島国際大学ミュージアム調査研究報告, 20: 19-22.

（2023年11月24日 受領／2023年12月7日 受理）



図1 沖永良部島の位置



図2 イクサイヨー洞穴遺跡の位置



図3 イクサイヨー洞穴遺跡（海食崖側から空撮）

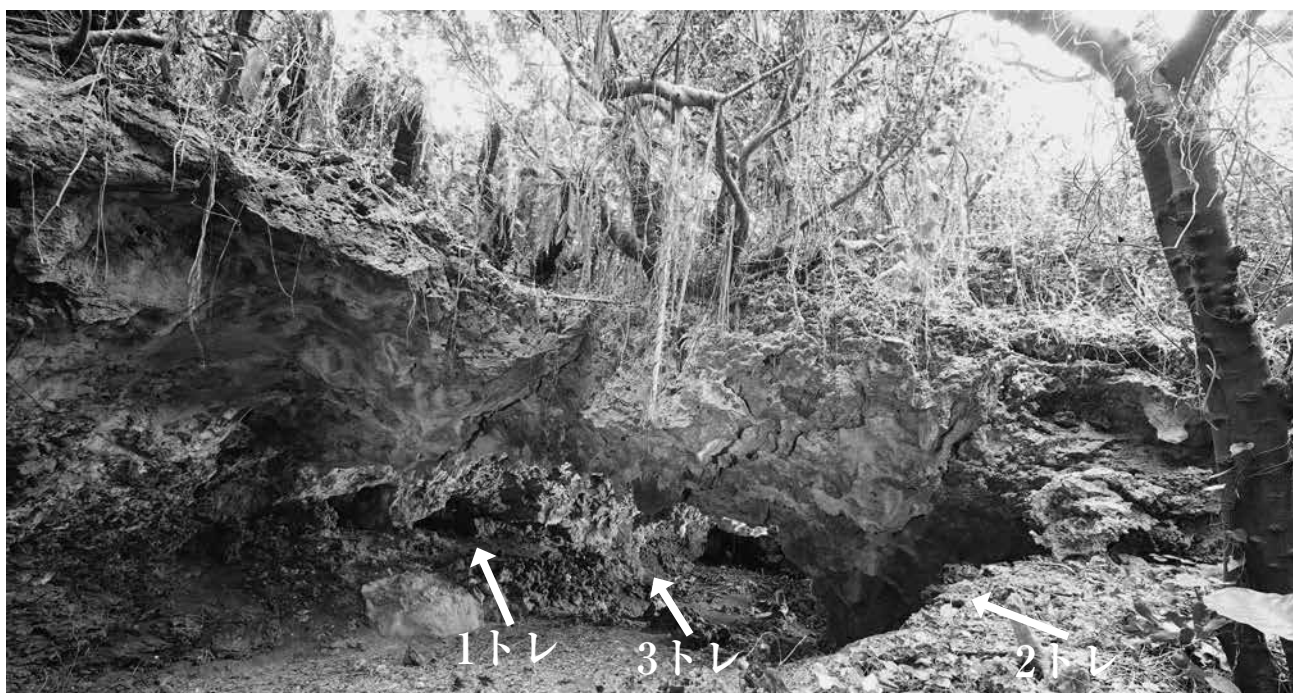


図4 トレンチ設定場所（1・2・3トレンチ）

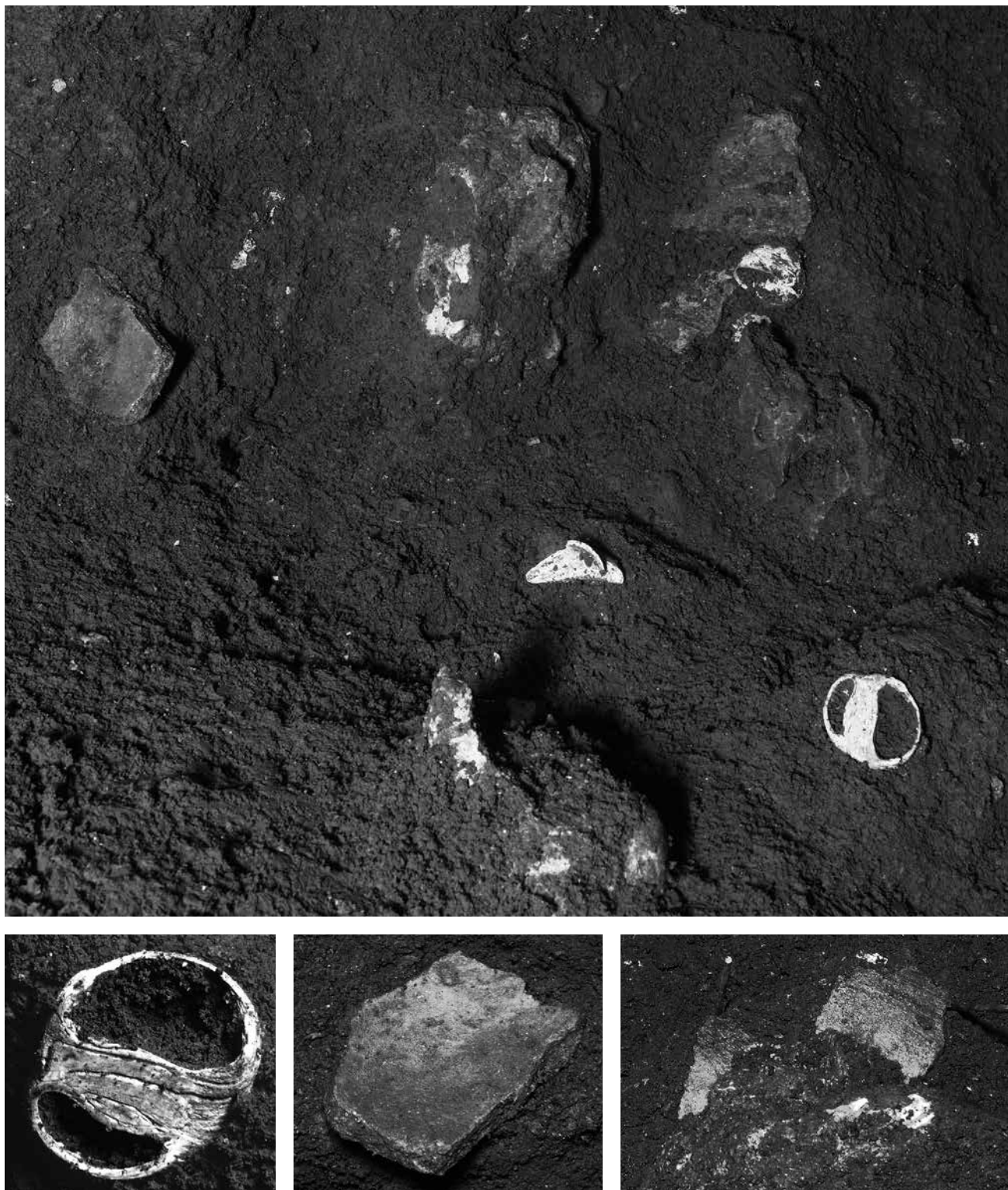


図5 1トレンチ下層出土遺物（2023年8月）



図6 1 トレンチ調査終了時最下面 (5層)

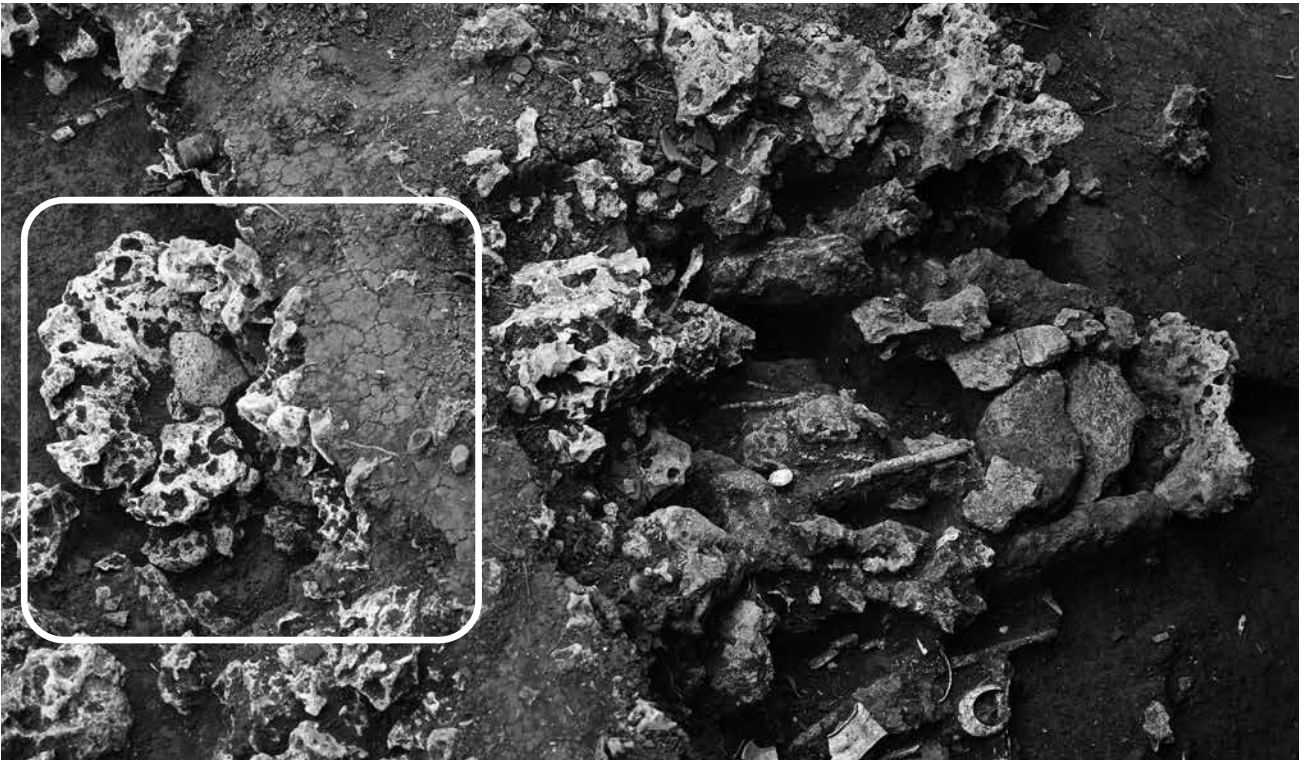


図7 2トレンチ東側拡張部から検出された石棺の東端（2023年8月）

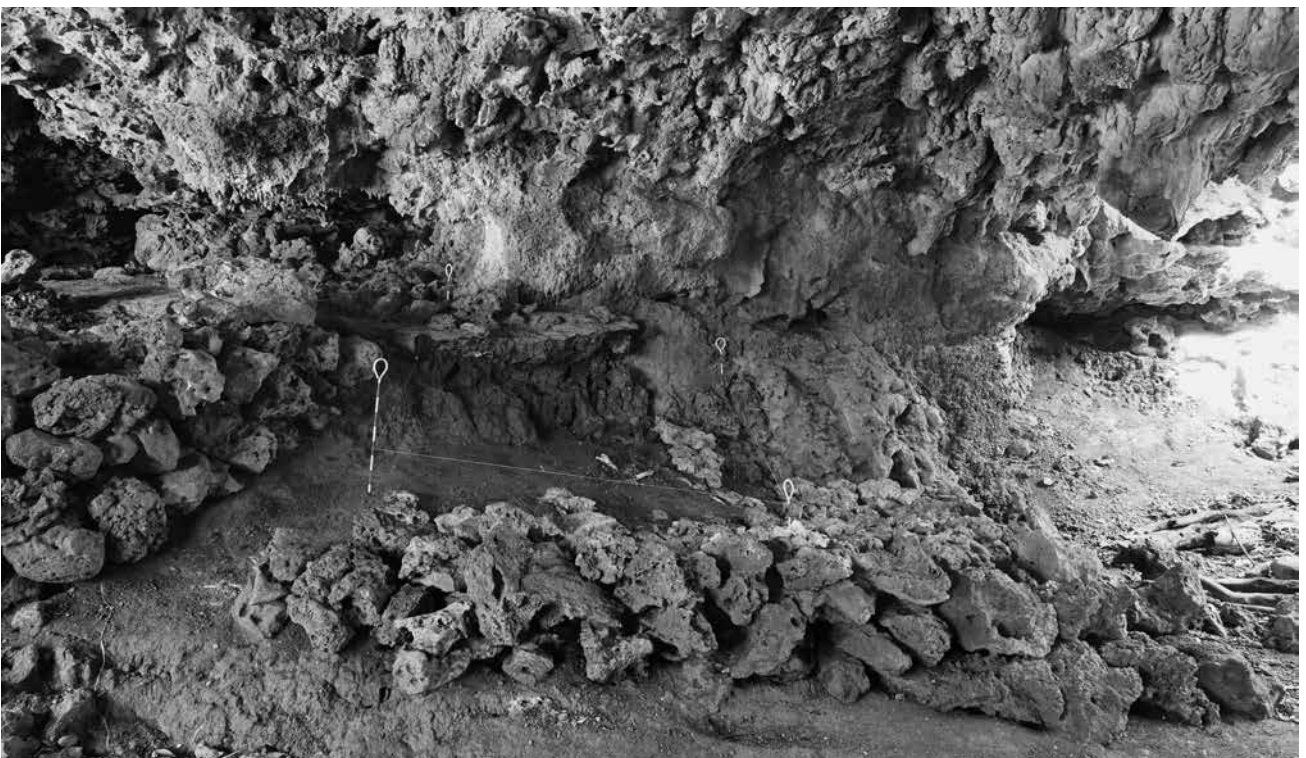


図8 3トレンチ設定（2023年8月）



図9 3トレンチ2層から出土した人骨片 (2023年8月)



図10 3トレンチ4層から出土した貝小玉および焼人骨片 (2023年8月)



図11 3トレンチ4層下面から出土した面縄前庭式土器片



図12 余多川側の洞穴開口部の岩裂中で検出された再葬人骨